

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 26 日現在

機関番号：37304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02306

研究課題名（和文）ASEANにおける日本語教育とキャリアパスのコネクティビティに関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental research on Japanese language education and career path connectivity in ASEAN countries

研究代表者

小鳥居 伸介 (Kotorii, Shinsuke)

長崎外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：80215293

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：ASEAN諸国の中でもベトナム、タイ、インドネシアに焦点を当て、各国の高等教育機関における日本語教育の実態と日本語を学ぶ学生たちのキャリア意識、現地日本企業が求める人材像との連結性について、アンケートやインタビュー調査を通して研究した。ベトナムとタイについては研究協力校において日本語を学ぶ学生たちへのアンケート調査を行い、学生たちのキャリア意識の違いについて比較検討した。インドネシアについてはアンケートは本研究機関内では実施できず今後の課題とし、研究協力校の学生へのインタビューによる意識調査を実施した。以上の成果については、2024年末までにワーキングペーパーとして発表することとしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまで焦点が当てられることのなかったASEANにおける日本語教育と日本語を学ぶ学生のキャリアパスおよび現地日本企業が求める人材像との連結性とギャップについて、ASEAN3国（ベトナム、タイ、インドネシア）の研究協力校と現地企業に対するアンケートとインタビュー調査を通して、その実態を明らかにすることを企図して実施された。その成果は研究分担者及び研究協力者の共著論文により発表されており、さらに最終成果として、2024年末までに最終成果報告書（ワーキングペーパー）を刊行することとしている。

研究成果の概要（英文）：Focusing on Vietnam, Thailand, and Indonesia among ASEAN countries, we conducted research on the actual state of Japanese education at higher education institutions in each country, the career awareness of Japanese language students, and the connectivity with the image of human resources sought by local Japan companies through questionnaires and interviews. In Vietnam and Thailand, we conducted a questionnaire survey of students studying Japanese at cooperating universities to compare the differences in students' career attitudes. In Indonesia, the questionnaire could not be conducted within this research institute, and it was a future issue, and an awareness survey was conducted by interviewing students from research partner universities. The above results will be published as a working paper by the end of 2024.

研究分野：教育文化人類学

キーワード：日本語教育 キャリアパス コネクティビティ ASEAN

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、非漢字圏の日本語教育に関する研究が進んでいる。その一つの要因は、我が国への留学生のうち中国や台湾、韓国出身者が減少し、ベトナムやインドネシアといった ASEAN 諸国の留学生が急増している点にある。同時に、それら ASEAN 諸国内においても日本語教育へのニーズが高まっており、学習者数も増加傾向にある。しかし、これら日本語学習者のその後、すなわちキャリアパスまで連結した日本語教育が取り組まれているとは言い難い。更に、ベトナムのハノイ市やホーチミン市、インドネシアのジャカルタ、タイのバンコクといった大都市圏での日本語教育は一程度の評価を得ており、日本語学習者のキャリアパス機会も、現地日本企業への就職、日本の大学院への進学など、多様に存在している。一方、ベトナムのフエ市やダナン市、インドネシアのジョグジャカルタ、タイのピッサヌロークなどの地方都市部では、地域の拠点大学で日本語教育が行われているものの、日本語学習者のキャリアパスに必ずしも直結していないという現状であった。他方、日本企業の ASEAN 地域への投資動向は、大企業から中小企業、都市部から地方都市へ進出傾向が伺われた(新美：2015 及び 2016)。

(2) 非漢字圏の学習者数の増加と学習動機の多様化、日本語学習者のニーズに応じた日本語教育を求める声の高まりを背景に、非漢字圏(とりわけ ASEAN 諸国)におけるビジネス日本語の必要性については、これまでいくつかの提言がなされているものの、現地高等教育における日本語教育とキャリアパスの連結の重要性及び必要性については、ほとんど言及されていないのが実情であり、研究の多くは言語習得や学習ストラテジーに関するものがほとんどであった。

2. 研究の目的

(1) 上記の背景・問題意識をもとに、非漢字圏である ASEAN 諸国の高等教育における日本語教育とキャリアパスの連結性という、これまでほとんど言及されることのなかった研究課題を究明するべく、長崎外国語大学及び日本国内の研究者にベトナム、インドネシア、タイの研究協力者を加えた研究チームを組織し、本研究「ASEAN における日本語教育とキャリアパスのコネクティビティに関する基礎的研究」に着手した。

(2) 研究協力校であるベトナム・フエ外国語大学、タイ・ナレースワン大学、インドネシア・ガジャマダ大学の地域研究者・日本語教育関係者を研究協力者として招集し、ASEAN 諸国における日本語教育の出口戦略と、現地人材の活用を模索する日本企業のニーズとそのギャップを整理し、実現可能な相互のコネクティビティを提示することを目標とした。

3. 研究の方法

(1) ASEAN 主要国の地方都市における日本語教育の実態を明らかにするために、現地日本語教育の態勢を調査、整理した。調査手法としては日本語教員へのインタビュー調査及び日本語を学ぶ学生へのアンケート調査とインタビュー調査を実施した。調査を実施する日本語教育機関は、ベトナム・フエ外国語大学、タイ・ナレースワン大学、インドネシア・ガジャマダ大学とした。

(2) 研究協力者を中心に現地に進出する日本企業の現地人材獲得の現状と課題をヒアリングし、企業側のニーズを整理した。ヒアリング対象とする日本企業は、ベトナムではダナン地域、インドネシアではカラワン地域、タイではバンコク地域での数社とした。

(3) 現地日本企業ニーズと現地での高等教育が、学生の効率的なキャリアパスにどう連結して

いるのか、いないのかを整理し、その連関のための課題や問題点を探った。

4. 研究成果

(1) 令和3年(2021年)度

コロナ禍のため現地調査は出来なかったが、オンラインを活用した研究集会を以下の通り実施し、成果を研究ノートと論文の形で発表することができた。

第1回研究集会(2021年9月4日(土)17:00~18:30): 研究協力者の松本剛次(長崎外国語大学特任講師[2022年度まで])に、「就業力(employability)を意識した教育政策と日本語教育におけるその実態 現状で知る限りのマレーシア、インドネシア、フィリピンを例に」として発表してもらった。参加者は小鳥居科研メンバー、ベトナム・フエ外大 Nguyen Thi Huong Tra 日本語・日本文化学部長、タイ・ナレスワン大学高橋勝幸教授ほか(ベトナム、タイメンバーはzoomで参加)。現地で日本語教育に携わった経験を持つ松本講師から、ASEAN 諸国における日本語教育の実情と課題について詳しい動向が伺えた。

第2回研究集会(2021年11月6日(土)14:00~17:00): 『長崎外国語大学論叢』第25号に発表する研究ノート、小鳥居・松本「インドネシアの高等教育機関における日本語教育と日系企業への人材供給に関する一考察」(pp.135-150)と論文、川崎・新美・Tra「ベトナムにおける日本語教育と人材供給に関する一考察」(pp.11-24)の内容を報告した。参加メンバーは1回目と同じ。文献、インターネットによる調査及びフエ外大での聞き取り調査により、次年度以降の現地調査に向けて課題を明確化した。

第3回研究集会(2022年3月5日(土)14:00~17:00): 新美が研究分担者として参加している他の科研「最低生計費と生活時間の観点からのディーセント・ワークの実証的研究」(日本国内の外国人労働者の経済状況や日本語教育及び多文化共生の課題についての研究)との合同で実施した。参加者は両科研のメンバーで、国内外の日本語教育とキャリアパスの連結性についての意見交換を行い、研究の進展のための示唆を得た。

(2) 令和4年(2022年)度

第1回研究集会(2022年5月14日(土)14:00~17:00): 研究協力者の小嶋紀博(別府大学文学部人間関係学科/キャリア支援センター[2023年度まで])に「日本的な雇用慣行とキャリア教育 国内留学生の就職状況」というテーマで発表していただいた。長崎外国語大学を会場とし、海外の研究協力者とはオンラインでつないで実施した。参加者は小嶋、科研メンバーの小鳥居・川崎・新美、研究協力者の松本剛次長崎外国語大学特任講師、Huong Tra フエ外国語大学日本語・日本文化学部長、高橋勝幸ナレスワン大学教授他。日本国内留学生と海外の日本語学習者とのキャリア意識の違いについて比較・検討し、知見を深めた。

タイ調査(2022年8月22日~8月30日): 2021年8月に実施したベトナム・フエ外国語大学での日本語学習者へのキャリア意識調査と同様の調査を科研メンバーの新美及び研究協力者高橋勝幸教授の在籍するナレスワン大学で実施し、その成果は『名古屋学院大学論集』(第59巻4号 pp.199-218)に「海外日本語学習者のキャリア意識と現地進出日本企業 タイとベトナム比較研究」として発表した。

ベトナム調査(2022年10月29日~11月4日): 科研メンバーの新美・小鳥居、研究協力者の Meyer Christophe(長崎外国語大学フランス語特任講師)の3名でフエ外国語大学を訪問し、日本語専攻とフランス語専攻の学生のキャリア意識の比較調査を行った。その成果は後述する国際ワークショップで発表された。同発表内容は2024年末までに発表される最終成果報告書(ワーキングペーパー)に掲載される予定である。また、Meyer は本訪問時の調査内容を基に論文

“The Roles of Cultural Institutes in Spreading French Culture in Vietnam”を『新長崎学研究センター紀要』第3号(pp.45-66)に発表した。

インドネシア調査(2023年2月18日~2月25日): 科研メンバーの小鳥居と研究協力者の松本剛次の2名でガジャマダ大学専門職学部日本語学科を訪問、日本語教員各位及び日本語専攻の学生に日本語教育・学習の目的やキャリア意識についての聞き取りを行った。その成果は小鳥居・松本の共著論文「インドネシアでの高等教育における日本語教育の新動向と、現地日本企業が求める人材について」として、2023年度の『新長崎学研究センター紀要』第3号(pp.87-104)に発表した。

また、英国の学術情報誌 Impact (Volume 2023, Number 1, March 2023, pp. 10-11(2))に本研究に関して、新美へのインタビュー記事が掲載された。

(3) 令和5年(2023年)度

最終年度の計画通り、研究分担者新美達也、研究協力者 Meyer Christophe によるタイ・ナレースワン大学、ベトナム・フエ外国語大学の訪問調査(2023年8月29日~9月5日)、研究代表者小鳥居伸介、研究分担者川崎加奈子によるインドネシア・ガジャマダ大学への訪問調査(2023年9月3日~8日)を行った。

ナレースワン大学では後述する国際ワークショップの参加依頼及び打ち合わせ、フエ外国語大学ではフランス語専攻学生へのキャリア意識調査を実施した。

ガジャマダ大学では前年度に行ったガジャマダ大学専門職学部日本語専攻学生及び日本語担当教員へのインタビューのフォローアップ調査を実施した。

これまでの研究成果の総括として、国際ワークショップ「ASEANにおける語学教育とキャリアパス」(2024年1月6日、名古屋学院大学名古屋キャンパス)を開催した。

演題と発表者は以下の通り。

「ベトナム・フエにおける日本語学習とキャリア」

Nguyen Thi Huong Tra (フエ外国語大学日本語・日本文化学部長)

「タイ・ピッサヌロークにおける日本語学習とキャリア」

Kanlaya Saenjaimoon (ナレースワン大学人文学部講師)

"French Language Learning and Teaching Situation in Vietnam and Thailand"

Meyer Christophe (長崎外国語大学特任講師)

「ベトナム・タイにおける日本語学習者のキャリア意識と日系企業動向」

新美達也 (名古屋学院大学准教授)

「インドネシアの高等教育機関における日本語教育の新動向と現地日本企業が求める人材」

小鳥居伸介 (長崎外国語大学教授)

「日本国内における留学生の就職行動」

小嶋紀博 (別府大学准教授[2023年度まで])

本ワークショップの内容は2024年度中にワーキングペーパーとして刊行する予定である。

(4) ベトナムの調査結果の概要

本科研費による調査に基づく研究論文(川崎・新美・Tra 2021)において、ASEAN及びベトナムへの日本企業の進出動向を概観し、ベトナムの地方都市、特に本学協定校であるフエ外国語大学のある地域周辺の日本語教育を詳述した。ベトナム地方都市の高等教育機関における日本語教育における課題として、学習者の増加とニーズの多様化が生じていること、高等教育機関とそれまでの教育の齟齬が学習者の学習意欲に影響を及ぼしていること、教員人材が不足していることなどがある。これらの問題に隠れて卒業後の日本語人材が社会に資する人材たり得ている

のかについての議論は、ほぼ手付かずであることがわかった。今後の課題として企業がどのような日本語人材を求めているのかについて、企業へのインタビュー記録や学生のキャリア意識のアンケート調査をもとに分析を進めていくことにした。

(5) タイの調査結果の概要

本科学研究費による調査に基づく研究論文(新美・高橋・奥村・松成・クルットムアン 2023)において、ナレースワン大学の日本語専攻学生へのアンケート調査をもとに、タイとベトナムの学生のキャリア意識の違いについて、フエ外大での調査結果との比較検討を行った。日本語学科への進学理由として、ベトナムは「日本企業に就職したいから」が一番多く 48%を占めたが、タイは「日本文化(ドラマ、マンガ、伝統など)に興味があったから」が一番多く 67.5%であった。タイでも「日本企業に就職したいから」は 27.9%あり、決して低い割合ではないが、就職よりも「日本語や日本全般に興味があったから」という理由で日本語を学んでいる学生が多いことがわかった。

(6) インドネシアの調査結果の概要

本科学研究費による調査に基づく研究論文(小鳥居・松本 2023)において、ジャカルタのダルマプルサダ大学とジョグジャカルタのガジャマダ大学における日本語教員へのヒアリングをもとに、インドネシアの高等教育機関における日本語教育の新動向について考察した。日本企業は採用後の教育・研修に力を入れていることが確認でき、また、大学側にもいくつかの更なる新たな動きができてきていることも確認できた。それは『『実務能力』を高等教育においてより強く育成しようという動き』がより具体化、実現化しようとしているという事実であり、また「日本語能力試験への合格に代表されるような『日本語力』の育成に重点が置かれている」という状況は少しずつではあるが変わりつつある、あるいは変わっていくことが期待できるという事実であった。

(7) 総括・今後の課題

本研究を通して、ASEAN 諸国における日本語教育とキャリアパスのコネクティビティに関する調査対象の 3 国に共通する課題を確認することができた。いずれの国においても卒業後のキャリアに直結するような日本語力の育成という課題は未解決であり、企業が求める実務能力を備えた人材育成は大学のカリキュラムにおいてはまだ途上にあるといえよう。インドネシアでの調査結果で見たように、高等教育機関において実務能力の育成が意識され始めているのは確かであり、日本や世界の大学教育の動向とも呼応する新しい教育の波が今後の ASEAN 諸国の大学教育でも現れてくると予想される。

<引用文献>

新美達也「ベトナム農村の非農業終了機会の増加」『アジ研ワールド・トレンド』No.233、2015、p.38-41.

新美達也「SDTV モデルの構築 ベトナムにおける工業化推進と高価値共住社会」(口頭発表)(「インドネシアにおける日系工業団地進出と地域社会変容に関する研究」研究会) 2016

川崎加奈子・新美達也・Nguyen Thi Huong Tra「ベトナムにおける日本語教育と人材供給に関する一考察」『長崎外大論叢』第 25 号、2021、p.11-24

新美達也・高橋勝幸・奥村匡史・松成ソーパー・クルットムアン・スワパン「海外日本語学習者のキャリア意識と現地進出日本企業 タイとベトナム比較研究」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』第 59 巻、第 4 号、2023、p.199-218

小鳥居伸介・松本剛次「インドネシアでの高等教育における日本語教育の新動向と、現地日本企業が求める人材について」『新長崎学研究センター紀要』第 3 号、2023、p.87-104

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 新美達也・高橋勝幸・奥村匡史・松成ソーパー・クルットムアン スワパン	4. 巻 第59巻 第4号
2. 論文標題 海外日本語学習者のキャリア意識と現地進出日本企業：タイとベトナム比較研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 社会科学篇	6. 最初と最後の頁 199-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15012/00001444	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Niimi, Tatsuya	4. 巻 volume 2023, number1
2. 論文標題 Fundamental research on Japanese language education and career path connectivity in ASEAN countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21820/23987073.2023.1.10	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 川崎加奈子・新美達也・Nguyen Thi Huong Tra	4. 巻 第25号
2. 論文標題 ベトナムにおける日本語教育と人材供給に関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎外大論叢	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小鳥居伸介・松本剛次	4. 巻 第25号
2. 論文標題 インドネシアの高等教育機関における日本語教育と日系企業への人材供給に関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎外大論叢	6. 最初と最後の頁 135-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小鳥居伸介・松本剛次	4. 巻 第3号
2. 論文標題 インドネシアでの高等教育における日本語教育の新動向と、現地日本企業が求める人材について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新長崎学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Meyer, Christophe	4. 巻 第3号
2. 論文標題 The Roles of Cultural Institutes in Spreading French Culture and Language in Vietnam	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新長崎学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 45-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川崎 加奈子 (Kawasaki Kanako) (50595642)	長崎外国語大学・外国語学部・准教授 (37304)	
研究分担者	新美 達也 (Niimi Tatsuya) (80773192)	名古屋学院大学・経済学部・准教授 (33912)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松本 剛次 (Matsumoto Koji)		
研究協力者	小嶋 紀博 (Kojima Norihiro)		
研究協力者	グエン ティ・フオン・チャー (Nguyen Thi Huong Tra)		
研究協力者	メーヤー クリstoff (Meyer Christophe)		
研究協力者	高橋 勝幸 (Takahashi Katsuyuki)		
研究協力者	奥村 匡史 (Okumura Masashi)		
研究協力者	松成 ソーパー (Matsunari Sopa)		
研究協力者	クルットムアン スワパン (Krutmuang Suwapan)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	センチャイムン カンラヤー (Saenjaimoon Kanlaya)		
研究協力者	ドゥイワルダニ ウリイ (Dwiwardani Wury)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際ワークショップ「ASEANにおける語学教育とキャリアパス」	開催年 2024年～2024年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関